シ ラ バ ス

科 目 名	管理会計	単位数	３単位	学年・学科	３学年　会計科	展　開	必修 ・ 選択
教科書名	教科書番号234　ＴＡＣ　教科書名　管理会計			副教材名	全商管理会計論点別NEWステップアップ		

科 目 の 目 標	商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，経営管理に有用な会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 会計情報を活用した経営管理の方法の妥当性と課題を見いだし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 (2) 適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら学び，経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
学習内容と進め方	・単元ごとに小テストを実施し、評価の参考にする。検定試験の都合により学習時間が不十分な単元は、検定試験後の授業において補完する。
学 習 の 留 意 点	(1)企業における取引を合理的、能率的に記帳する知識と技術を習得するため、取引を分解し、取引要素の結合関係を確認しながら学習を進めることで理解が深まります。 (2)教科書に書かれている文章を読んで覚えるだけでなく、授業で取り上げる例題や記帳練習を繰り返し行うなど、様々な課題を解決することで、より高度な学習に進むことができます。 (3)授業に積極的に参加することが大切です。より合理的、能率的に記帳する方法を探求したり、わからないところを級友と教え合うなどしながら学習を進めることで、学習内容の理解を図ることができます。

月	単　　元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点 1	2	3	備考（評価項目）
4 5	オリエンテーション ※4月から6月までは日商簿記2級の学習と全商簿記の学習を行う。	1 7 １２	2年次の復習を重点的に行い６月までの検定に合わせて学習をする。	○	○	○	復習を行いながら、各自の理解不足を知り、重点的に学習できているか。
6		１２	全商1級の取得を目指す学習。全商クラス・日商クラスに分けて学習に取り組む 小テスト・定期考査 過去問題の見直し	○ ○ ○	○ ○	○ ○	資格取得に向けて主体的な学習ができているか。 小テスト、定期考査の結果を踏まえ、復習をすることができるか。
6	１編　管理会計と経営管理				○	○	
	第１章　管理会計の目的	１２	1 管理会計の目的 2 財務会計と管理会計の違い 3 経営管理の重要性			○	管理会計と財務会計の目的の違い及び企業が発展する上で経営管理が重要な役割を担っていることを理解できたか。
7 8	第２章　管理会計と原価計算		1 管理会計と原価計算の関係 2 原価計算の目的と管理会計 3 原価計算制度と特殊原価調査	○	○	○	経営管理の視点から捉えた管理会計と原価計算との関係について理解できたか。
9	第３章　管理会計に有用な原価情報		1 操業度との関連における分類 2 原価の管理可能性にもとづく分類 3 責任会計	○	○	○	経営管理の視点から捉えた原価分類について理解できたか。
１０	第２編　短期利益計画						
	第４章　原価予測の方向		1 短期利益計画とは 2 原価予測とは 3 原価の固変分解 4 原価の固変分解の方法	○	○	○	原価予測の方法に関して，費目別精査法，高低点法，最小自乗法について理解できたか。
１１ １２ 1	第５章　ＣＶＰ分析と感度分析 （家庭学習期間）		1 CVP 分析 2 CVP 分析と損益分岐図表 3 損益分岐点売上高と損益分岐点販売量 4 目標営業利益を達成する売上高 5 損益分岐点比率と安全余裕率 6 経営レバレッジ係数 7 CVP の感度分析	○	○		安全余裕率，損益分岐点比率及び経営レバレッジ係数の計算方法と活用方法について扱う。また，販売価格，販売量，変動費，固定費などの変化が営業利益に及ぼす影響について理解できたか。

評価方法	・定期テスト　・小テスト・観察（学習状況，発表など）・学習の振り返り（単元の確認）

	観点	趣旨
評価の観点	１．知識・技能	・管理会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。
	２．思考・判断・表現	・会計情報を活用した経営管理の方法の妥当性と課題を見いだし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応策を考案している。
	３．主体的に学習に取り組む態度	・適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら学び，経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価基準	１．知識・技能	A　各単元の内容を理解できた。 B　十分ではないが理解できている。 C　不十分である。
	２．思考・判断・表現	A　経営の意思決定に役立つ考えを身につけることができた。 B　十分ではないが理解できている。 C　 不十分である。
	３．主体的に学習に取り組む態度	A　管理の予算決定について、計画を立てることができた。 B　十分ではないが計画を立てることができる。 C 計画内容について不十分である。